

大倉桃郎 おほくら 小説家。明治十二年十一月十七日香川縣生れ、昭和十九年四月二十一日没（八七九一五四）。本名國松。筆名とゞき、吉岡千萬樹、桃郎、桃郎生、梅影、琴峰、舟町彩、一秋の戸、裁書子、黒風白雨樓主人等。國語傳習所の學ぶ。雑誌『文庫』の常連投稿家となり、次々新聞・雑誌の懸賞小説に應募。日露戦争に應召し、凱旋後新聞記者十餘年。この間戰場體驗を題材に、更に歴史小説、のちには少年少女小説も加へ多作。

著書『琵琶歌』（磯村靜編、明治二十八年四月、千日金屋文淵堂）、『舊山河』（同、明治二十九年八月十日金屋文淵堂）、『琵琶歌・後篇』（明治四十二年九月十八日前川又三郎杉本要刊、梁江堂）、『歴史物語江戸城』（明治四十五年五月二十五日同文館）、『新世帯』（大正五年一月）『二十八日南人社』『南人文庫』、『戰國武士』（大正八年二月）『五白谿水社』、『慶長武士』（大正十二年十一月十日雄山閣）、『恩讐一番槍』（昭和十八年四月）『千日新正堂』等。

